

リンダウ・ノーベル賞受賞者会議派遣事業  
第69回会議参加者アンケート 集計結果

1. 本事業をどのような経緯で知りましたか。(複数回答可)

JSPSのHP	0
JSPSのメールマガジン(JSPS Monthly)	1
JSPSからのメールでの案内	3
所属機関からの案内	3
所属学会のHP、メールマガジン	0
日本人研究者からの案内	3
外国人研究者からの案内	1
その他	0

2-1. リンダウ・ノーベル賞受賞者会への参加は有益でしたか。

はい	9
いいえ	0

2-2. 上記のとおり回答した理由した理由は何ですか。

国、人種、性、年齢、文化、宗教、役職等々、人間を規定するあらゆるカテゴリを超えて、話ができるというのは科学それ自体が持つ魅力を超えたコミュニティの魅力の一つだと思うが、リンダウ会議ではそれを顕著に感じることができたため。また会議の構成や運営の質の高さについても目を眩るものがあり、自身が何かを企画する立場になったとき必ず参考にするとすると思うため。

ノーベル賞受賞者の方々と交流を通して、専門的な研究に関する知識だけでなく、研究の進め方・考え方、教育方法、キャリアの築き方など、幅広い知識を得ることが出来ました。また、世界中の優秀な若手研究者達と交流することで、研究への新たなモチベーションを得るとともに、世界中の異なる文化などについても見識を広げることが出来ました。

今回参加したリンダウ会議では、通常参加する国際学会とは異なり、様々な国(89カ国)・研究機関から多様な研究分野(ときには物理以外の分野)から参加者が集まっており、その多種多様さに圧倒されるとともに国際的なネットワーク作りの重要性を肌で実感しました。さらに参加者同士でコミュニケーションをとるような機会があり、自分の研究分野を1-2分程度で他分野の人に分かりやすく伝えることの難しさ・重要性を学びました。

世界中の科学者の中で最も成功した方々といえるノーベル賞受賞者とお話できるというのは、もちろん研究に携わる人間としては非常に有意義です。それに加えて本会議が有益だと感じたのは、世界中から集まる若手研究者との交流ができることです。リンダウ・ノーベル受賞者会議ほど、異分野の研究について聞いた話したりする機会はそうないでしょう。週の後半にはハードとも思えてくるほど、日々異分野の若手研究者と知り合い、色々な話をします。全く異なる分野・環境で活躍する若手研究者の経験談を知ること、研究者としての見識が一気に広がったように思います。

本会議への参加を通して、ノーベル賞受賞者の方々の経験や考え方、研究の進め方などを理解することができ、大変貴重な経験になった。Lecture, Agora talk, Discussionなどのセッションは勿論、通常の国際学会では経験できないScience walk, Master class, ポスター発表のためのcoaching sessionなどで得られた経験も、今後の研究活動に大いに役立つと考えている。また、世界各国から選ばれた若手研究者の方々と交流は新鮮かつ刺激的なもので、国際的な場で研究活動を続けていきたいという希望が強まった。

This meeting is quite unlike other scientific conferences. I feel its purpose and benefit is to build motivation and inspiration in attendees and to widen their perspective of scientific research and balancing life and work. As the conference is not on a specific topic, you will be exposed to many new ideas and concepts. It will really give you a sense of global science.

ノーベル受賞者に自分の研究を紹介することができ、アドバイスをもらえ、成果が出たら連絡するように言われ、会議のあとでも連絡ができるようになった。また、参加者の中で自分の研究に関連する実験をしている人を見つけ、議論することができ、面白い論文を教えてもらった。

憧れだったリンダウ会議に実際に参加して、想像していた以上に良い経験になり、尊敬できる先生や仲間との出会いにも恵まれました。ノーベル賞受賞者との対話、志が高い多くの若手研究者との交流は、自身の研究者としての在り方を見つめ直し、向上しようというモチベーションアップにつながりました。

3. リンダウ・ノーベル賞受賞者会議に参加して、どのような影響がありましたか。(複数回答可)

学術的な視野が広がった。	8
通常の国際学会では得られないような助言を受けることができた。	7
国際的な場で研究活動を行いたい、という希望が強まった。	7
将来、大学や学会等でリーダーとして活躍したい、という希望が強まった。	3
共同研究等の持続的な研究交流のパートナーが見つかった。	1
自身を研究者として受け入れる研究室が見つかった。	0
webやメールではなく、顔を合わせた議論や交流の重要性を認識した。	5

4. 他の日本人若手研究者にも本事業への参加を勧めたいと思いますか。

はい	9
いいえ	0